

# 学生 日程集中負担大きく

大学を来春卒業予定の学生に対する大手企業の採用試験が6月1日に解禁され、大学生の就職活動が山場を迎えている。本年度は就活日程の2年連続見直しにより、試験開始は前年度の8月から2カ月前倒し

## 多角 鋭角

れ、「超短期決戦」の様相。青森県内の学生からは「日程集中で負担が大きい」「時間がない」などの声が漏れる。一方、就活が学生優位の売り手市場となっており、地元企業からは人材確保への不安も聞かれる。  
(金澤一能、松原一茂)

### 青森県内も「超短期決戦」に



八戸市で開かれた合同企業説明会。日程の見直しで大卒予定者の就活は超短期決戦となっている＝5月下旬

本年度は企業説明会の開始が3月で変わらないもの試験は前倒しとなり、説明会から試験までの日程がわずか3カ月となった。県外での就職を考えているという八戸学院大ビジネス学科4年の田沢優さん(21)は「説明会が重なり、参加できないところもあった」と影響を明かす。中小企業では大手に先駆

けて試験を行っており、5月後半から県外に足を運ぶ機会が増えているという。試験日程が集中するため、短期的な経済負担も大きい。ただ、首都圏の学生から、早いところは3月中旬に試験を行ったと聞く。落ち着かない。同じ大学内にも内定を受けた学生がおり「早く決めたい」と話す。「時間がなくて少し焦っている」と語るのは八戸学院短大の女子学生(20)。説明会から試験までの期間が短く、「心構えや準備が大変」という。試験日程の変更は学業への影響も懸念される。同大就職課の担当者は「教育実習と重なる可能性がある」と指摘する。

採用を早めているのは県外企業ばかりでない。県内でも一部で既に内定や内々定を出したところもあり、企業間の競争は激化している。

県南地方の福祉関係者は「最近が高卒者も大卒者も

確保が難しい。地元就職希望者は他の業種に引っ張られ、大卒者の確保は今年も厳しいだろう」とため息交じりで。八戸市の製造業者は会社見学会を積極的に行い、採用要件を緩和して学部の枠を取り払うなど大卒採用に力を入れる。それでも「学生の動きが速く、しかも売り手市場なので内定辞退が怖い」と今後を心配する。別の製造業者も「6月1日の解禁に合わせて早めに動いているが、他の会社と

説明会や面接の日程が重ならないか心配。採用人数に達しなければ、追加募集も考えたい」とした。

# 企業 競争激化確保に苦慮